山　709－2004・6・20（第三種郵便物認可）

第709号 平成16年6月20日発行（毎月20日発行）
昭和49年8月31日　第三種郵便物認可

平成16年度通常総会
100周年記念事業を承認

平成16年度通常総会が5月15日14時から東京・麹町の弘済会館で開かれた。総会には、会員127人が出席し①平成15年度事業報告および収支決算・財産目録の承認、②平成16年度事業計画および収支予算の承認、③100周年記念事業、④平成16年度除籍者―の件について審議した結果、いずれも原案どおり可決承認した。（事業報告等の詳細内容は別掲）

■会長あいさつ
2世紀に向けスタート切る

議案審議に先立ち、平山善吉会長は次のように挨拶した。

「この1年間、100周年記念事業の企画・立案と実施体制の整備にまい進した。10月25日には支部長を交え理事・評議員の合同会議を開いて企画の概要と実施体制を承認していただいた。みなさんには機関誌『山』の100周年ニュースでお伝えしている。会の現況をみると、会員は1年前と比べ72人の減少となった。平均年齢は64歳。これからは、いっそう会員の減少と高齢化が進む。海外との交流が盛んだった。ネパール、中国の登山協会、ブータンの観光局などの幹部をお迎えし、私自身も中国を訪問した。国内では支部の活動に目を見張るものがある。首都圏でも同期会の同好会への転換が進み活動が活発になっている。100周年を機に二世紀めにはいるが、いったいどのような方向に進むべきなのか。大胆かつ迅速に新しい方向に向けてスタートを切りたいと考えている」

■事業報告・収支決算
ルーム201号室を購入

総会には2411の委任状が提出され、在籍者は5872人であり、出席者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は成立した。議事録の署名人には上野美裕、染谷美佐子の両会員を選任した。

事業報告・計画は藤本慶光総務担当理事、収支決算・予算および財産目録は橋本清副会長財務担当が説明した。

〔事業報告〕 6月に第57回ウェストン祭を開催した。7月には同好会連絡会議を開いた。同期会に対してかねて同好会に転換するよう要請している。ほとんどの同期会が転換した。9月に青森で行った全国支部懇談会には200人以上の会員が参加した。10月に堀田弥一名誉会員の講演会を開催した。連続講演会「語り継ぐ黎明期の登山」の第1弾。同10月、自然保護全国集会を岐阜・下呂温泉で開いた。12月7日には年次晩餐会を開催。皇太子さまが3年ぶりにご出席された。1月にはインド・エヴェレスト隊長と会見、2月にはチベット登山協会の皆さんを囲む会

2004年（平成16年）
6月号（No. 709）
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部　150円
URL●http://www.jac.or.jp
e-mail●jac-info@jac.or.jp

目　次

平成16年度通常総会　100周年記念事業を承認……1
平成15年度事業報告……4
収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表……5
財産目録……6
監事監査報告・平成16年度年次計画……8
平成16年度収支予算書……9
100周年ニュース……10
海外の山……11
報告……12
図書・第32回山岳史懇談会／高尾の森・第4回植樹祭
東西南北……14
富士山測候所有効利用
英文誌『ジャパニーズ・アルパイン・ニューズ』第5号発行……16
Climbing & Medicine・34……17
図書紹介……18
新入会員・図書受入報告……20
会務報告……21
INFORMATION……22
ルーム日誌……23

▶日本山岳会事務（含図書室）取扱時間
月・火・木 …… 10～20時
水・金 …… 13～20時
第2、第4土曜日 …… 閉室
第1、第3、第5土曜日 … 10～18時
ルーム夏期休室日 ……8月14～22日

5月15日に開かれた通常総会

を催した。2月には中央分水嶺踏査についてシンポジウムを開いた。

〔収支決算等〕収支決算は、収入が1億1911万円となり、予算を3351万円上回った。会費・入会金収入は6874万円だった。事業収入のなかで、山研収入は夏の天候不順で利用者が少なく予算を大幅に下回った。補助金収入200万円は高尾の森づくりに対する国土緑化推進機構からの助成金。3754万円の特定預金取崩収入はルーム201号室購入のため「長期計画準備金」を取り崩したもの。

支出は1億2305万円。出版費が会報『山』700号の目録号（50号ごとに発行）の印刷費、名簿の発行、その他管理費がパソコン・コピー機の更新で費用増となった。租税公課、雑費の増加は201号室購入のための仲介・登記料、消費税などの支払いによるもの。201号室購入は、仲介料などを含め合計3795万円となった。この結果、当期支出合計は予算を3447万円上回った。次期繰越収支差額は818万円、期末正味財産合計額は4億1248万円となった。

これらに対し、内田博監事から収支計算書等が正確・妥当であることを認める監査報告があった。

■16年度事業計画・収支予算

全国支部懇談会は熊本で

〔事業計画〕すでに4月に連続講演会「語り継ぐ黎明期の登山」第2弾として渡辺兵力名誉会員の講演会を実施、6月6日にはウェストン祭を上高地で行う。9月10～12日には自然保護全国集会を上高地で開催する。ことしは、松方三郎氏の提唱で自然保護の活動を始めてから40年目を迎える。10月2、3日には全国支部懇談会を熊本で開催する。年次晩餐会は12月4日に行う。自然保護委員会による自然の森づくりは、高尾、白神に続き東海支部も県有林で開始する。

〔収支予算〕これらに対する予算は、収入を9204万円とした。前年度予算に比べ645万円の増加。これには「長期計画準備金」預金の取り崩し1000万円が含まれている。新入会員は192人と見込んだ。支出は、前年度比982万円増の9840万円。「創立100周年記念事業特別会計」に1000万円を支出することが大きい。山研の運営費は運営費と管理費に分けて計上することにした。通常管理費は極力抑えたが、ルームの拡張、パソコン・コピー機の更新などで経費が膨らむ。収支は636万円のマイナス。

■100周年記念事業

ブロックごとに記念式典

続いて3号議案。100周年記念事業について。平林克敏副会長が「記念事業」、芳賀孝郎副会長が「募金」、また橋本副会長が「財政」について説明した。

〔記念事業〕「百年史」の編纂は順調に進んでおり2006年6月までに完成するだろう。英文ジャーナルも内容をつめている。1500部を予定し海外に配布したい。『新日本山嶽誌』も同年8月に完成の予定。

記念登山は、海外の登山と海外トレッキング、それに国内の中央分水嶺踏査に分かれて進めている。中央分水嶺の踏査は来年中に8～9割を終え、再来年5月に完全踏査、報告書の作成に移る。

記念フォーラムは、各支部ないし各ブロックで開きたい。「新しい世紀と自然」とか「世界の探検と日本とのかかわり」などのテーマが考えられる。これに関連し2006年は、日本山岳会がマナスルに初登頂してから50年となる。ネパールなどから記念事業の申し入れがある。委員会をつくって検討したい。

式典は総合式典を東京で開くほかブロック別に実施する。北海道、東北、北陸など、それぞれに計画が固まりつつある。

〔記念募金〕一般会員から3か年にわたって年3000円ずつ募金していただいているが、実績は3

月末で650万円にとどまる。募金していただいた人は2160人。全会員の36％にしかすぎない。そこで、募金のための組織をつくって協力してもらうことにした。支部は支部でもって、首都圏は都・県ごとに、さらに同好会・委員会を単位に責任を持って集めるようにお願いする。会長・副会長、理事には、経験者を含めてそれぞれに応分の負担をお願いする考えだ。有力企業や大学山岳部などからも募りたい。法人からの募金は3500〜4500万円を目標にする。3万円以上の募金に対して免税措置を申請中だ。

【財政】 総額8500万円で動き始めている。今年度と来年度に長期計画準備金を1000万円ずつ計2000万円取り崩す。日本山岳会の財政はきつくなってきており、できるかぎり通常の財政から独立させたいが、「百年史」の制作に2000万円かかることもあり、やむをえない。

大きな支出は式典の開催だ。総合式典のほか8〜9ブロックで行う。このほか「百年史」の刊行をはじめ英文ジャーナルの発行、記念フォーラム、自然の森づくり、海外登山、中央分水嶺の踏査など。

■16年度除籍対象者
会費納入に協力を

4号議案は除籍対象者の件。48人が対象となった。会費を3年間滞納した人は除籍の対象となる。知人に声をかけ会費を納めて留まるよう説得してほしいという要請があった。

■質疑応答
「百年史」を読みやすい形に

南川金一会員（9475）『山岳』復刻版を出版するための謝礼金をアテネ書房は支払っているか。出版社から提案した話にもかかわらず、残念だ。復刻版の出来ばえはよくない。こうした話を進めるにあたっては業者の選定を含めてしっかり対処してほしい。

橋本副会長　約束した金額の一部として4月に20万円が入金している。残金を早急に支払うよう求めていきたい。

石田稔郎会員（6065）　年次晩餐会で出される料理の質が年々落ちてきている。来年からもう少しよくなるようホテル側と交渉してほしい。

柴田篤志会員（4932）　中央分水嶺踏査にかかわる経費は個人の持ち出しとなるのか。

橋本副会長・藤本理事　すでにGPSを30台購入した。本部で負担するのは、このほか打ち合わせ費、報告書作成費などだ。予算はおよそ400万円。交通費などは現地の負担となる。基本的には個人の負担だ。

江本嘉伸会員（8637）　なぜ「百年史」が2000万円もかかるのか。あすに向かってのおカネならともかく、再検討すべきだ。冊子は全員に配布するのか。

松田雄一・百年史刊行委員長　『山岳』2冊分ぐらいのボリュームになるだろう。その制作費や送料がかかる。それに集めた資料をきちんと残しておきたいと考えている。海外登山のための資料などをデータベースにして将来役に立つようにしたい。デジタル化のための費用がかかる。

江本会員　資料を整理して残すことは意義深いことだが、会員に配布する「百年史」は面白く読むことのできる、たとえば新書版のようなものがいいのではないか。そのうえで、時間をかけて資料を整理し新しい時代に対応できるよう、CD−ROMなどのデジタル媒体で保存すればよい。

松田委員長　「百年史」の通史はエッセンスとして、できるかぎり読みやすいようにしたいが、付属するデータのほうは簡単にはいかない。すべてを冊子に盛り込むわけでなく、別途まとめて残したいと考えてはいるが、10年来やってきていることでもあり、当初の基本方針に沿ってやっている。冊子は全員に配布したい。最後の段階でどのような形にするか、を考えていけばいいと思う。

中村保・英文ジャーナル刊行委員長　『ジャパニーズ・アルパイン・ニュース』記念号は、たんに英文「百年史」をつくるのではなく、日本の登山・山岳文化を含め、日本の山に関する100年をとりあげた内容にしたい。出版は2006年5月ごろになる。

総会終了後、懇親会を開いた。山田二郎名誉会員が音頭をとって乾杯し和やかな歓談を続けた。

（文・高橋重之、写真・今村千秋）

		東京ガーデンパレス
1月30日	講演会「サティア・プラダ・ダム氏を囲んで」（青年・海外）	本会
2月5日	ポカラ国際山岳博物館（IMM）開所式（海外）	
2月6～8日	懇親スキー山行（事業）	志賀高原
2月7～9日	第2回「雪を知る」雪崩講習会（指導）	
2月10日	アイスクライミング研修会（指導・青年・学生）	八ヶ岳
2月13日	第32回山岳史懇談会（図書）	本会
2月20日	「チベット登山協会の皆さんを囲む会」（海外）	新宿中村屋
2月21日	シンポジウム「中央分水嶺踏査について」（科学）	グリーンホテル水道橋
2月21～22日	支部事務局担当者会議（総務）	〃
2月21～22日	日山協海外登山研究会（海外）	八王子セミナーハウス
2月29日	講演会「新しい高山病の考え」（医療）	本会
3月27日	自然観察山行（自然保護）	高尾山
3月27日	中村保氏を囲む会（海外）	国際文化会館
3月28日	大学山岳部監督会議（学生）	法政大学
3月29日	新人勧誘対策・後期納会（学生）	

2．登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

＊上高地山岳研究所の運用
＊受入れ資料保管
＊各博物館、美術館との提携強化
＊海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存

3．山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

＊7月　全国山岳遭難対策協議会への出席（滋賀県）
＊通年　日山協・労山・都岳連との合同調査活動

4．自然保護活動の推進

＊山の自然環境保全のための政策提言、意見書の提出
＊自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
＊自然保護委員会による「高尾の森づくり」

5．機関誌等の発行

＊『山岳』第98年（2003年）の発行
＊会報695号～706号の発行
＊インターネット・ホームページの更新
＊海外向英文誌『Japanese Alpine News』No.4発行
＊青年部会報『きりぎりす』発行
＊会員名簿（2003）発行

6．国内および外国山岳団体との情報交換

＊国内関係団体（日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HAT—J・その他）との連絡
＊海外登山団体との機関誌の交換および情報誌の購入

7．海外登山等

＊未踏峰カングリ・シャール　シニア登山隊
＊冬期ローツェ南壁登山隊2003（創立100周年記念登山・東海支部）
＊ツゥイ・カンリ登山偵察隊（創立100周年記念登山・関西支部）

8．100周年記念事業の計画推進

＊創立100周年記念事業委員会他、下部組織を編成
＊中央分水嶺踏査着手
＊長期目標委員会検討開始
＊会員募金開始
＊会報『山』に「100周年ニュース」を掲載
＊募金委員会開催
＊百年史の編集
＊『新日本山嶽誌』の編集

9．その他目的を達成するために必要な事業

＊山岳図書の整備
＊山研ミニ水力発電装置稼動運営
＊海外登山基金による助成
＊第6回秩父宮記念山岳賞の授与
＊その他

（社）日本山岳会　平成15年度事業報告

平成15年4月1日～平成16年3月31日

1．登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、およびシンポジウムの開催

4月10日	学生部総会（学生）	本会
4月12～13日	新入部員歓迎会（学生）	奥多摩
4月13日	「高尾の森づくり」植樹祭（自然保護）	高尾山
4月20～5月14日	カングリ・シャール支援トレッキング（事業）	エヴェレスト街道
4月28日	講演会「東カラコルム登山隊報告」（海外）	本会
4月28日	山研開所（山研）	上高地
5月15日	講演会「南の塩の道について」（科学）	本会
5月16日	支部長懇談会（総務）	グリーンホテル
5月17日	支部長会議（総務）	〃
5月17日	通常総会（総務）	〃
5月31～6月1日	第23回日本登山医学シンポジウム（医療）	東京
5月31～6月1日	新入会員のための「徳本峠越えとウェストン祭」（山研）	上高地
6月1日	第57回ウェストン祭（信濃支部）	〃
6月5～8日	若葉山行　山菜探索（事業）	月山・湯殿山・羽黒山
6月7～8日	探索山行「南の塩の道と熊伏山を訪ねて」（科学）	熊伏山
7月3日	講演会「夏の山の気象」（科学）	本会
7月4～5日	全国山岳遭難対策協議会への出席（指導）	滋賀県
7月5～6日	沢登り集会（学生）	東丹沢
7月14日	同好会連絡会議（総務）	本会
7月25～27日	救急法講演会（指導）	白馬岳
8月16～18日	親子で登る北アルプス　雪渓と岩と高山植物に親しむ（事業）	立山・剣
8月22～24日	フォーラムIN　武田久吉を考えるシンポジウム（自然保護）	尾瀬桧枝岐
9月5日	ビールパーティ（総務）	本会
9月5～7日	紅葉山行下見（事業）	剣山・石鎚山
9月6日	名誉会員を囲む会（総務）	本会
9月12日	第10回古道を歩く（図書）	富士山吉田口
9月13～14日	第20回全国支部懇談会（青森支部）	十和田湖
9月19日	創立100周年拡大実行委員会	本部
9月20～21日	オータムコンサート（山研）	上高地
9月25日	登山報告会、講演会「アンナプルナ南壁」（青年）	本会
10月2日	ブータン国、観光局長、次長と会見	メトロポリタンホテル
10月10日	第12回山を語る（図書）	〃
10月16日	講演会「堀田弥一名誉会員」（資料・映像）	東京体育館
10月16日	講演会「衛星通信を利用した登山位置画像伝送システムについて」（科学）	本会
10月18～19日	小川山集会（学生）	小川山
10月10～13日	紅葉山行　四国の最高峰を目指す（事業）	石鎚山～剣山
10月11～13日	自然保護全国集会（自然保護）	岐阜下呂温泉
10月18日	新入会員オリエンテーション（総務）	本会
10月18日	虹芝寮集会（青年）	谷川岳
10月25日	理事会、評議員会、支部長会合同会議	損保会館
10月25日	第7回全国山岳博物館会議（資料・映像）	本会
10月31日	講演会「西域探検とグレートゲーム」（海外）	学習院記念会館
11月7日	山研閉所（山研）	上高地
11月15日	中国登山協会を訪問（会長）	北京
11月16日	マラソン大会（学生）	皇居外苑
11月27日	講演会「称名滝ワンプッシュでの登攀」（青年）	本会
11月28～30日	雪上訓練（事業）	富士山
12月6日	支部長会議（総務）	新高輪プリンスホテル
12月6日	年次晩餐会（総務）	〃
12月6日	深田久弥山の著作展（図書）	〃
12月7日	年次晩餐会記念山行（事業）	高尾山
12月10日	創立100周年記念事業委員会	本部
12月20日	自然観察山行（自然保護）	奥多摩
12月30～1月4日	年末年始山研自然観察会（山研）	上高地
1月13日	自然観察会下見（自然保護）	秩父
1月24日	インド、エヴェレスト登山隊長、サティア・プラダ・ダム氏と会見	本部
1月24日	講演会「噛み合わせと健康と二足歩行と」（医療）	

振替手数料	800,000	667,402	132,598	
福利厚生費	300,000	231,940	68,060	
事務所管理費	970,000	966,799	3,201	
その他管理費	2,800,000	3,292,627	−492,627	
負担金	80,000	60,000	20,000	
退職金	0	0	0	
賃借料	5,700,000	5,688,000	12,000	
雑費	900,000	2,324,948	−1,424,948	
管理費計	29,980,000	31,667,047	−1,687,047	
3　固定資産取得支出				
土地購入支出	0	27,344,955	−27,344,955	(注)1
建物建設購入支出	0	8,655,045	−8,655,045	(注)1
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出計	0	36,000,000	−36,000,000	
4　特定預金支出				
長期計画積立金支出	0	0	0	
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	0	1,000,000	
海外登山基金支出	0	0	0	
終身会費積立金支出	0	288,000	−288,000	
退職給与引当預金支出	0	0	0	
特定預金支出計	1,000,000	288,000	712,000	
5　予備費				
予備費	1,500,000	0	1,500,000	
当期支出合計(C)	88,580,000	123,055,401	−34,475,401	
当期収支差額(A)−(C)	−2,985,000	−3,944,597	959,597	
次期繰越収支差額(B)−(C)	9,146,211	8,186,614	959,597	

（注）1　ルーム201号室購入支出￥36,000,000

正味財産増減計算書

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで

科目	金額		
Ⅰ　増加の部			
1　資産増加額			
終身会費積立金	288,000		
建物建設購入	8,655,045		
土地購入	27,344,955	36,288,000	
2　負債減少額	0	0	
増加額合計			36,288,000
Ⅱ　減少の部			
1　資産減少額			
当期収支差額	3,944,597		
棚卸資産	575,902		
長期計画準備金	37,547,000	42,067,499	
2　負債増加額	0	0	
減少額合計			42,067,499
当期正味財産減少額			5,779,499
前期繰越正味財産額			418,269,222
期末正味財産合計額			412,489,723

貸借対照表

平成16年3月31日現在

科目	金額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金	135,700		
振替貯金	834,182		
普通預金	1,679,213		
定期預金	0		
未収会費	5,796,000		
棚卸資産	1,879,652		
流動資産合計		10,324,747	

収支計算書

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ　収入の部				
1　基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	3,211	1,789	
2　会費・入会金収入				
入会金収入	4,000,000	3,660,000	340,000	
復活入会金収入	0	80,000	−80,000	
通常会費収入	67,000,000	64,721,000	2,279,000	
終身会費収入	0	288,000	−288,000	
会費･入会金収入計	71,000,000	68,749,000	2,251,000	
3　事業収入				
広告料収入	2,900,000	3,205,950	−305,950	
印税収入	10,000	0	10,000	
刊行物売上収入	300,000	322,115	−22,115	
山研使用料収入	3,500,000	2,494,367	1,005,633	
その他事業収入	4,500,000	3,892,791	607,209	
事業収入計	11,210,000	9,915,223	1,294,777	
4　補助金等収入				
補助金収入	0	2,000,000	−2,000,000	(注)1
5　寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	0	0	
6　雑収入				
受取利息	80,000	27,053	52,947	
雑収入	800,000	869,317	−69,317	
雑収入計	880,000	896,370	−16,370	
7　特定預金取崩収入	2,500,000	37,547,000	−35,047,000	(注)2
当期収入合計（A）	85,595,000	119,110,804	−33,515,804	
前期繰越収支差額	12,131,211	12,131,211	0	
収入合計(B)	97,726,211	131,242,015	−33,515,804	

（注）1「社団法人国土緑化推進機構」助成金￥2,000,000
（注）2「長期計画準備金」預金取崩し　　￥37,547,000

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅱ　支出の部				
1　事業費				
出版費	12,000,000	12,492,352	−492,352	
図書管理費	400,000	184,911	215,089	
調査研究費	3,480,000	2,793,846	686,154	
指導費	2,070,000	1,986,333	83,667	
支部関係費	12,000,000	11,382,923	617,077	
海外諸関係費	500,000	180,558	319,442	
海外登山補助費	1,600,000	1,600,000	0	
山岳研究所運営費	6,600,000	5,974,283	625,717	
その他事業費	9,850,000	8,870,733	979,267	
印刷・製本費	2,300,000	3,441,956	−1,141,956	
刊行物発送費	5,300,000	6,192,459	−892,459	
事業費計	56,100,000	55,100,354	999,646	
2　管理費				
給料手当	12,400,000	12,930,150	−530,150	
文具消耗品費	450,000	210,020	239,980	
印刷製本費	1,100,000	1,290,717	−190,717	
旅費交通費	800,000	578,590	221,410	
通信運搬費	1,200,000	742,897	457,103	
火災保険料	320,000	206,190	113,810	
修繕費	100,000	196,150	−96,150	
租税公課	480,000	963,032	−483,032	
光熱水料費	800,000	676,628	123,372	
電話料	500,000	385,610	114,390	
会議費	180,000	74,957	105,043	
什器備品費	100,000	180,390	−80,390	

4．固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科　目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建　物	153,078,045	0	153,078,045
什器備品	9,584,982	0	9,584,982
合　計	162,663,027	0	162,663,027

財産目録

平成16年3月31日現在

科　目	金　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金			
現　金			
現金手許有高	135,700		
振替貯金			
千代田四番町郵便局	834,182		
普通預金			
りそな銀行市ヶ谷支店	1,020,416		
東京三菱銀行市ヶ谷支店	342,865		
中央三井信託銀行本店	293,591		
みずほ銀行市ヶ谷支店	3,583		
三井住友銀行飯田橋支店	11,280		
ＵＦＪ銀行新宿支店	3,609		
通常貯金			
千代田四番町郵便局	3,869		
未収会費　483名	5,796,000		
棚卸資産（注）1	1,879,652		
流動資産合計		10,324,747	
2　固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託			
中央三井信託銀行	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2) その他の固定資産（注）2			
土　地	73,642,125		
建　物	153,078,045		
敷　金	840,000		
什器備品	9,584,982		
長期計画準備金			
(定期預金　千代田四番町郵便局)	5,043,000		
(定期預金　東京三菱市ヶ谷)	18,003,644		
(普通預金　東京三菱市ヶ谷)	6,200,000		
(普通預金　みずほ市ヶ谷駅前)	800,000		
秩父宮記念基金			
(定期預金　UFJ新宿)	15,000,000		
終身会費積立金			
(定期預金 みずほ市ヶ谷)	18,632,000		
海外登山基金			
(普通預金　りそな市ヶ谷)	33,600,000		
(定期預金　三井住友飯田橋)	30,000,000		
(普通預金　みずほ市ヶ谷駅前)	30,000,000		
退職引当預金			
(定期預金 みずほ市ヶ谷)	4,691,620		
その他固定資産合計	399,115,416		
固定資産合計		407,115,416	
資産合計			417,440,163
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
前受会費			
平成15年度会費　13名分	156,000		
預り金			
職員に対する源泉所得税その他	102,820		
流動負債合計		258,820	
2　固定負債			
退職給与引当金	4,691,620		
2　固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他の固定資産			
土地	73,642,125		
建物	153,078,045		
敷金	840,000		
什器備品	9,584,982		
長期計画準備金	30,046,644		
秩父宮記念基金	15,000,000		
終身会費積立金	18,632,000		
海外登山基金	93,600,000		
退職引当預金	4,691,620		
その他の固定資産合計	399,115,416		
固定資産合計		407,115,416	
資産合計			417,440,163
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
前受会費	156,000		
預り金	102,820		
流動負債合計		258,820	
2　固定負債			
退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			4,950,440
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産			412,489,723
(うち基本金)			(8,000,000)
(うち当期正味財産減少額)			(5,779,499)
負債および正味財産合計			417,440,163

計算書類に対する注記

1．重要な会計方針

(1)　有価証券の評価基準および評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。

(2)　固定資産の減価償却について
建物および什器備品の減価償却は行っていない。

(3)　引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の95%に相当する額を計上している。

(4)　資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費および預り金を含めている。
なお、前期末および当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2．基本財産の増減額および残高は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託 （中央三井信託銀行）	8,000,000	0	0	8,000,000
合計（基本金）	8,000,000	0	0	8,000,000

3．次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期末残高	備　考
現金預金	7,157,081	2,649,095	
その他預金	9,690	339	
未収会費	5,208,000	5,796,000	
合　計	12,374,771	8,445,434	
前受会費	144,000	156,000	
預り金	99,560	102,820	
合　計	243,560	258,820	
次期繰越収支差額	12,131,211	8,186,614	

鳥（カット原画）	墨絵	石井　鶴三	本　会
メールドグラス	エッチング		本　会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	ｼｭﾗｰｷﾞﾝﾄﾜｲﾄ	本　会
ユングフラウ	油	山里　寿男	伯耆国山岳美術館
涸沼より北穂高	水彩－6	山里　寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油－10	中村　清太郎	本　会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎　千代二	本　会
北穂高滝谷	油－25	足立　源一郎	本　会
或朝の槍ヶ岳	油－25	足立　源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油－25	足立　源一郎	本　会
槍ヶ岳	油－P8	足立　源一郎	本　会
タンボチェの僧院	水彩－4	清野　恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩－4	清野　恒	松本アルプス山岳館
冬の山（清太山）	墨絵	近藤　茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油－12	後藤　三男	本　会
早朝の上高地山岳研究所	版画－8	松田　敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩－10	松田　敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画－8	鈴木　正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油－10	神原　忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山　晩霞	本　会
上高地秋景	油－F20	後藤　三男	上高地山岳研究所
マチャプチャレ	油－20	武井　清	本　会
朝霧	水彩－8	越智　英夫	本　会
白樺の林	油－6	茨木　猪之吉	本　会
麓春	油－P50	倉員　辰雄	本　会
ヒマラヤダージリンにて	油－F4	上野　春香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油－30	武井　清	本　会
安曇野の春	油－30	後藤　三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油－30	藤江　幾太郎	本　会
アルパータ	油－6	レオン・アマン	本　会
ケルン	油－6	金光　義朗	上高地山岳研究所
山	油－6	辰沼　広吉	本　会
アルパータとピッケル	水彩	カナダ山岳会	本　会
題名不詳　24枚	油－10	茨木　猪之吉	本　会
題名不詳　8枚	油－6	茨木　猪之吉	本　会
題名不詳　12枚	水彩	茨木　猪之吉	本　会
スケッチブック	32冊	茨木　猪之吉	本　会
ロンブクよりエベレスト	版画	H．ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木　正俊	本　会
穂高連峰	版画	小暮　真望	本　会
安曇野と常念岳	版画	小暮　真望	本　会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮　真望	本　会
谷川岳	版画	小暮　真望	本　会
シダンゴ山　晩秋	版画	鈴木　正俊	本　会
檜洞丸山荘	版画	鈴木　正俊	本　会
世界の名山36峰ペン画集	ペン画	牧　潤一	本　会

（他の絵画，写真　省略）

2．図　書

和　書	平成15年度受入冊数	114冊	蔵書計	10,980冊
洋　書	平成15年度受入冊数	25冊	蔵書計	3,702冊

3．フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスルに立つ」　他
ビデオ	272点	「映像史　ヒマラヤへの道」　他

社団法人 日本山岳会 平成15年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成16年4月15日

社団法人　日　本　山　岳　会

監　事　　内　田　　博
監　事　　一　力　英　夫

固定負債合計	4,691,620	
負債合計		4,950,440
正味財産合計		412,489,723

（注）1　棚卸資産内訳

種　類	摘　要	金　額
刊　行　物	「山岳」総索引，「山岳」覆刻版　等	968,756
服飾品，その他	クラブタイ，タイ止　等	910,8963
合　計		1,879,652

（注）2　その他固定資産内訳

1．建物および土地

A．事務所および土地	
場所　東京都千代田区四番町5番4号	
構造　鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建	
（事務所）　区分所有建物1階部分　103.32㎡	
宅地持分　1,124.56㎡×339/10,000	
＝38.122584㎡	
（図書室）　区分所有建物1階部分　55.22㎡	
宅地持分　1,124.56㎡×176/10,000	
＝19.792256㎡	
計　158.54㎡　宅地持分　57.914840㎡	
（201号室）区分所有建物2階部分　74.68㎡	
宅地持分　1,124.56㎡× 486/20,000	
＝27.326808㎡	
計　233.32㎡　宅地持分　85.241648㎡	108,720,170
B．上高地山岳研究所	
場所　長野県南安曇郡安曇村4469番地1	
構造　木造2階建地下1階（一部コンクリート造）	
1棟　274.09㎡	118,000,000
合　計	226,720,170

2．什器備品

品　名	取得年月日	取得価格	所　在
書庫内移動書架一式　コンパックル	S53.02.10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル（木製2台）	53.09.28	250,000	図書室
ライティングビューロー（木製）	54.06.23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット（スチール製）	56.08.08	254,000	事務所
書棚（木製2段）	56.12.22	500,000	図書室
16mm 映写機　16-CL（MO）	61.05.13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付（2台）	62.09.24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	H02.07.19	587,932	事務所
世界対応VTR　001 NWV	04.05.11	250,000	事務所
小型気象ファクシミリ　JAX-9	04.10.19	320,000	事務所
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	05.03.20	250,000	山　研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	05.03.20	280,000	山　研
ナショナルBS付ビデオ　HV-BS50S	05.03.20	250,000	山　研
ミニ水力発電装置	11.11.30	3,816,750	山　研
シャープノートパソコン　PC-MJ700R	13.02.28	190,000	事務所
合　計		9,584,982	

財産目録記載外のその他物品リスト（主として受贈益）

1．絵　画

題　名	種類・号数	作　者　名	掲載・保管場所
白馬岳	油－A50	中村　清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油－A25	茨木　猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形－6	中村　清太郎	本　会
群猿	墨絵	石井　鶴三	本　会
伊豆半島	油－10	茨木　猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油－10	茨木　猪之吉	本　会
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田　吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油－10	茨木　猪之吉	本　会

9月	第13回山を語る（図書）	
9月	講演会（海外）	
9月	中央分水嶺登山（科学）	
9月	小川山集会（学生部）	
9月	大学山岳部監督会議（指導・学生部）	
10月2～3日	全国支部懇談会（熊本支部）	熊本
10月8～11日	紅葉山行（事業）	伯耆大山・三瓶山
10月16日	新入会員オリエンテーション（総務）	本会
10月16～17日	虹芝寮集会（青年部）	
10月22日	マナスル登山隊2005結団式（事業）	
10月	第8回全国山岳博物館連絡会議（資料・映像）	
10月	第3回連続講演会（資料・映像）	東京体育館
10月	講演会「世界の山と日本の山」（科学）	
10月	自然観察山行（自然保護）	茨城県下妻
11月5日	山研閉所（山研）	上高地
11月6～7日	山研閉所作業（山研）	〃
11月	第36回山岳図書を語る夕べ（図書）	
11月	大学山岳部会議（指導）	
11月	山岳映画会（資料・映像）	本会
11月	中央分水嶺登山（科学）	
11月	マラソン大会（学生部）	
11月27～28日	雪上訓練（事業）	富士山
12月4日	支部長会議（総務）	新高輪プリンスホテル
12月4日	年次晩餐会（総務）	〃
12月5日	年次晩餐会記念山行（事業）	
12月23日	登山報告会、講演会（青年部）	
12月30～1月4日	山研年末年始保守状況チェック（山研）	上高地
1月	スキー懇親山行（事業）	
1月	講演会（海外）	
1月	冬山報告会（学生部）	
2月19～20日	支部事務局担当者会議（総務）	グリーンホテル水道橋
2月	第33回山岳史懇談会（図書）	
2月	冬山技術講習会（指導）	
2月	日山協、HAJ主催の海外登山研究会参加（海外）	
2月	講演会「登山行動とサプリメント」（科学）	
2月	アイスクライミング講習会（学生部）	

2．登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

＊上高地山岳研究所の運用
＊受入れ資料保管
＊各博物館、美術館との提携強化
＊海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのデジタル化による保存

3．山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

＊7月　全国山岳遭難対策協議会への出席（滋賀県）
＊通年　日山協・労山・都岳連との合同調査活動

4．自然保護活動の推進

＊自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行
＊自然保護委員会による「高尾の森づくり」
＊環境行政等への意見書、政策提言の発信
＊自然保護委員会による自然保護知識啓発のための自然観察山行

5．機関誌等の発行

＊『山岳』第99年（2004年）の発行
＊会報707号～718号の発行
＊インターネット・ホームページの更新
＊海外向英文誌『Japanese Alpine News』発行
＊青年部会報『きりぎりす』発行

6．国内および外国山岳団体との情報交換

＊国内関係団体（日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・ＨＡＴ－Ｊ・その他）との連絡
＊海外登山団体との機関誌の交換および情報誌の購入

7．海外登山等

＊4月10日～5月24日　テンギ・ラギ・タウ峰シニア登山隊2004

監事監査報告

平成16年4月15日に行った平成15年度（平成15年4月1日～平成16年3月31日）における会計の監査ならびに期中の業務監査の結果を、次の通り報告する。

記

会計監査については、帳簿ならびに関係書類の閲覧等、必要と思われる手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
業務監査については、理事会等に出席し、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見は次の通り。

(1) 現金については、監査日当日現在の残高と、帳簿の金額は一致し、正しく出納されているものと認める。
(2) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は、本会の収支状況および財政状態を正しく示しているものと認める。
(3) 事業報告の内容は、真実であると認める。
(4) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令、定款に違反する重大な事実はないと認める。
(5) 100周年記念事業を控え、本会事務局を一層充実する必要があると考える。

以上

(社)日本山岳会　平成16年度事業計画

平成16年4月1日～平成17年3月31日

1．登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、およびシンポジウムの開催

4月3日	第2回連続講演会（資料・映像）	東京体育館
4月9日	第32回山岳史懇談会（図書）	
4月10日	第24回日本登山医学シンポジウム（医療）	
4月24～15日	山研開所作業（山研）	上高地
4月28日	山研開所（山研）	〃
4月	学生部総会（学生部）	
5月14日	支部長懇談会（総務）	グリーンホテル
5月15日	支部長会議（総務）	〃
5月15日	通常総会（総務）	〃
5月22日	登山報告会、講演会（青年部）	
5月22～23日	自然観察山行（自然保護）	東大演習林
5月28～30日	若葉山行（事業）	房住山
5月29～30日	登山医学シンポジウム（医療）	
5月	講演会（海外）	
5月	新入部員歓迎会（学生部）	
6月5～6日	新入会員のための「徳本峠越えとウェストン祭」（山研）	上高地
6月6日	第58回ウェストン祭（信濃支部）	〃
6月12～13日	探索山行「七ヶ岳の地形探訪」（科学）	
6月	沢登り集会（学生部）	
7月9～11日	夏山山行（事業）	加賀白山
7月12日	同好会連絡会議（総務）	本会
7月27日	登山報告会、講演会（青年部）	
7月	救急法講習会（指導）	
7月	全国山岳遭難対策協議会への出席（指導）	
7月	講演会「異常気象について」（科学）	
7月	山岳映画会（資料・映像）	
7月	前期納会（学生部）	
8月20～22日	フォーラムIN（自然保護）	
8月26～29日	海外登山（事業）	韓国　仁寿峰・仙人峰
9月1日	ビールパーティ（総務）	本会
9月4日	名誉会員を囲む会（総務）	本会
9月10～12日	自然保護全国集会（自然保護）	上高地
9月18～19日	オータムコンサート（山研）	〃
9月24日	登山報告会、講演会（青年部）	

ミニ水力発電運営費	200,000	0	200,000	
海外登山補助費	1,600,000	1,600,000	0	
その他事業費	19,850,000	9,850,000	10,000,000	(注)1
印刷・製本費	2,300,000	2,300,000	0	
刊行物発送費	5,300,000	5,300,000	0	
事業費計	65,515,000	56,100,000	9,415,000	
2　管理費				
給料手当	12,400,000	12,400,000	0	
文具消耗品費	450,000	450,000	0	
印刷製本費	1,100,000	1,100,000	0	
旅費交通費	800,000	800,000	0	
通信運搬費	1,200,000	1,200,000	0	
火災保険料	340,000	320,000	20,000	
修繕費	100,000	100,000	0	
租税公課	648,200	480,000	168,200	
光熱水料費	800,000	800,000	0	
電話料	500,000	500,000	0	
会議費	180,000	180,000	0	
什器備品費	100,000	100,000	0	
振替手数料	800,000	800,000	0	
福利厚生費	300,000	300,000	0	
事務所管理費	1,196,680	970,000	226,680	
その他管理費	2,800,000	2,800,000	0	
負担金	80,000	80,000	0	
賃借料	5,700,000	5,700,000	0	
雑費	900,000	900,000	0	
管理費計	30,394,880	29,980,000	414,880	
3　固定資産取得支出				
什器備品購入支出	0	0	0	
固定資産取得支出計	0	0	0	
4　特定預金支出				
長期計画積立金支出	0	0	0	
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0	
海外登山基金支出	0	0	0	
終身会費積立金支出	0	0	0	
退職給与引当預金支出	0	0	0	
特定預金支出計	1,000,000	1,000,000	0	
5　予備費				
予備費	1,500,000	1,500,000	0	
当期支出合計(C)	98,409,880	88,580,000	9,829,880	
当期収支差額(A)－(C)	－6,364,880	－2,985,000	－3,379,880	
次期繰越収支差額(B)－(C)	1,821,734	9,146,211	－7,324,477	

（注）1「創立100周年記念事業特別会計」に￥10,000,000支出

大姑娘山　高山植物咲き乱れる（5025m）登頂10日間
出発日　A)7/2(金)　B)7/4(日)　C)7/9(金)　D)7/11(日)
E)7/16(金)　F)7/18(日)　G)7/23(金)　H)7/25(日)
料金　A)～E)　325,000円　　F)～H)　335,000円
総合カタログ　2004年度　無料
ぜひご請求ください！
山旅専門旅行社　アミューズトラベル
〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4ＫＮ新宿ビル11階
TEL:03(5919)1188　FAX:03(5919)1189

8．100周年記念事業の計画推進

＊「百年史」の編集
＊『新日本山嶽誌』の編集
＊中央分水嶺踏査
＊海外登山

9．その他目的を達成するために必要な事業

＊山岳図書の整備
＊山研ミニ水力発電装置稼動運営
＊海外登山基金による助成
＊第７回秩父宮記念山岳賞の授与
＊その他

収　支　予　算　書

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

科　目	平成16年度予算額	前年度予算額	増　減	備考
Ⅰ　収入の部				
1　基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	5,000	0	
2　会費・入会金収入				
入会金収入	4,000,000	4,000,000	0	
通常会費収入	67,000,000	67,000,000	0	
終身会費収入	360,000	0	360,000	
会費･入会金収入計	71,360,000	71,000,000	360,000	
3　事業収入				
広告料収入	1,600,000	2,900,000	－1,300,000	
印税収入	10,000	10,000	0	
刊行物売上収入	200,000	300,000	－100,000	
山研使用料収入	3,500,000	3,500,000	0	
その他事業収入	4,500,000	4,500,000	0	
事業収入計	9,810,000	11,210,000	－1,400,000	
4　補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5　寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6　雑収入				
受取利息	70,000	80,000	－10,000	
雑収入	800,000	800,000	0	
雑収入計	870,000	880,000	－10,000	
7　特定預金取崩収入	10,000,000	2,500,000	7,500,000	(注)1
当期収入合計（A）	92,045,000	85,595,000	6,450,000	
前期繰越収支差額	8,186,614	12,131,211	－3,944,597	
収　入　合　計(B)	100,231,614	97,726,211	2,505,403	

（注）1「長期計画準備金」預金取崩し　　￥10,000,000

科　目	平成16年度予算額	前年度予算額	増　減	備考
Ⅱ　支出の部				
1　事業費				
出版費	11,900,000	12,000,000	－100,000	
図書管理費	550,000	400,000	150,000	
調査研究費	2,648,000	3,480,000	－832,000	
指導費	2,070,000	2,070,000	0	
支部関係費	12,000,000	12,000,000	0	
海外諸関係費	600,000	500,000	100,000	
山岳研究所運営費	4,710,000	6,600,000	－1,890,000	
山岳研究所管理費	1,787,000	0	1,787,000	

100周年記念事業の経過報告

藤本　慶光

■マナスル登山隊

100周年記念事業として、日本人が初登頂した唯一の8000m峰マナスルに、登頂50周年記念登山隊を隊員の募集形式で派遣する計画が進められている。この計画に対して「8000m峰に対して安易ではないのか？」「危機管理の面は大丈夫か？」などの声が寄せられている。

こうした声を受けて先日、平山会長を中心に常務理事会を開いて事情を聴取した。その結果、計画どおりに推進しながら、隊員の応募状況や隊員構成などをみて「100周年記念事業」や「マナスル登頂50周年記念登山」の冠をつけるかどうかを最終的に判断する方針を改めて確認した。

■記念事業計画書の作成

今回の記念事業の推進に当たっては、多くの関係方面に援助をお願いしなければならないが、その際簡潔に計画概要を知っていただくための計画書を作成した。A4判見開き6ページのカラー印刷で、会長挨拶、推進組織、事業概要、事業費と募金概要などの構成になっている。末尾にポケットをつけてここにそれぞれに必要な資料や募金依頼書などを挿入する。外部への募金依頼などにおおいに活用していただきたいので必要な方は本部に申し出てほしい。

■創立100周年記念事業委員会の開催

今回の記念事業の推進の中心となる上記の委員会を開催し、行事内容の経過報告、活動予算の概要説明、募金状況の報告などを行い、意見をいただいた。

■財務委員会の開催

記念事業を推進していくうえで必要な活動費についての収支計画が検討された。総額8500万円の活動費は、会員からの寄付、一般からの寄付、長期積立金の取り崩し、物品の販売でまかなわれるが、未確定な部分が多いので予備費を計上した。

海外登山1000万円、中央分水嶺踏査450万円。百年史出版に1800万円などの大枠が決定されたが、募金状況などに応じて見直しが必要となることも予想される。

■募金委員会の開催

会員募金については、1人当たり年3000円で3年で計9000円の募金をお願いし、すでに第1年度が終了したが、約3分の1の会員の方々にご協力をいただいた。まだ募金に応じてくださっていない方も多いので、平成16年度の総会通知の発送の際、初年度に募金してくださった方々への2年度以降のお願いとは別個に初年度からの募金を再度お願いすることにした。

一般募金については当今の厳しい経済状況に鑑みて大変困難なことが予想されるのでできるだけ大勢の会員の方々のお力を借りて積極的に多方面にあたることとした。実施する行事に冠をつけて大口の寄付をいただく可能性も議論された。

寄付金の免税処置については、日本山岳協会を通じて体育協会枠の取得を申請することとした。

■長期目標検討委員会

今回の100周年を機に将来の日本山岳会はいかにあるべきかを考える当委員会が数度にわたって開催され、活発な議論がなされている。成案ができた段階で理事会に提案されて可能な部分は迅速に着手することが検討されている。

■ブロック別記念式典の実施

100周年を祝う記念式典については、東京において実施される総合式典とは別個にいくつかの支部をブロックにまとめて各地で実施するが、すでに九州ブロック、東北ブロック、北陸、京都、岐阜ブロック、山陰、広島ブロックなどのブロックでの開催が決定されている。最終的には全国で8ないしは9のブロックで記念式典が開催される予定である。

■中央分水嶺踏査

全国25支部の全てと首都圏の同好会が担当して北の宗谷岬から南の佐田岬までの中央分水嶺を踏査する企画はすでにいくつかの支部で着手されている。支部や同好会に属していない会員の参加については、いろいろ困難な条件があり、すべての地域で受け入れることはできないが、いくつかの区間での受け入れが検討されていて、一般に公募される。

登山計画は25の支部、17の同好会全てから提出された。ホームページは既に稼動しており、国土地理院から電子国土の使用支援を受ける予定である。

先般NTTドコモの協力で衛星通信を使用した映像と音声の交信実験が陣馬山と本部集会室の間で行われてほぼ期待した結果を得たので今後分水嶺踏査の際に実施する予定である。

海外の山

さまざまなヒマラヤ 2004春

江本　嘉伸

ヒマラヤのプレモンスーンは、各地から山登りの便りが届く。はがきではない。Eメールである。

「先ほどカトマンズにもどりました。5月15日、PM3・30、ローツェ登頂。5月24日、AM7・30、エヴェレスト登頂。ローツェでは落石の直撃をくらって左腕がだめになりムービーまわせず。エヴェレストではなんとか映像に収めてきました。たいしたことはできねえなと、そんな気がいたしました。

渡邉玉枝さんは65歳で5つめの8000㍍峰登頂です。たいしたもんだと思いました」（5月29日）

村口徳行（のりゆき）。2年前63歳の渡邉玉枝とともにエヴェレストに登り、昨年は70歳の三浦雄一郎とエヴェレストに立った彼も48歳。もっぱら「わき」に徹しているが、その男がローツェに続いてエヴェレスト4回目の登頂をやって「たいしたことはできねえ」と言っているのがおもしろい。村口の登り方には、独特の何かがある。

シェルパのチュワン・ニマ（12回目の登頂）と夢をかなえた瞬間の太田（近藤謙司撮影・5月20日午前10時47分）

「なますてー！　アンナプルナに登れましたー！（5月29日）この日登頂したのはラルフ、ガリンダ、私・ヒロの3人。翌日、デニス・ウルブコフとシモーネ・モローが頂上に向かいましたがシモーネは途中、体調を崩し後退。途中からデニスがひとりで登頂しました。ヤバイよ！この山のこのルートは。これまでこんなにも死んでいて、最近、登られていないわけが登ってみて本当に良くわかった。これはヤバイ」

6月1日にメールをくれたのは、31歳の元気もの、竹内洋岳。竹内ら3人はBCにヘリで入り、アルパインスタイルで5日間で頂上到達、7日目にBCに戻り、再びヘリでカトマンズに戻ったという。ブロックの崩壊でかなりこわい山だったらしい。

エヴェレストはことしも盛況だった。ヒラリー、テンジンの初登頂から半世紀となる2003年は過去最高の261名が登頂し、世界を驚かせたが、この傾向は変わらず、2004年は6月1日までになんと300人以上が登頂に成功、通算すると実に2200人を上回る人がいまやエヴェレスト・サミッターになった。

ほとんどの登頂がノーマル・ルートからだったが、特筆されていいのは、ロシア隊による北壁ダイレクト・ルートの初完登だ。80年の日本山岳会隊はじめこれまでの登攀は、クーロワールに入り込むなどかなり壁のはじ寄りにならざるを得なかったが、真っ直ぐのラインをみごと描き上げたロシア人魂、さすがである。ロシア人たちはこの春、ジャヌー北壁も前人未踏のダイレクト・ルートを切り開く大きな成果をあげた。

日本初の「商業公募登山隊」としてエヴェレストをねらった「アドベンチャーガイズ隊」の、63歳の女性医師、大田祥子が登頂を果たしながら下降中、第2ステップ付近で力尽きたのは、残念だった。

特異な事故だった。大田医師は近藤謙司隊長らとともにこの日各国隊のなかで2番目に登頂、下降に入り、難所の第2ステップを2ピッチ自力で懸垂下降。近藤の待つ岩棚に向けて一歩を踏み出したところでアイゼンの爪が古いロープの束を踏んでしまった。バランスを大きく崩し、頭を下にして宙吊りの状態に。そして、動かなくなった。一種の突然死ではないかと推測されている。

大田は、広島県福山市の脳神経センター、大田記念病院の院長夫人。がむしゃらに働き続け、40歳になったとき、「こんな人生でよかったのか」と目覚め、山登りをはじめた。97年エヴェレスト山麓トレッキングに参加、02年チョー・オユーに登頂、ことし「夢の実現」のためエヴェレストを目指していた。

この隊は、ウェブサイトのやりとりが活発で、盛り上がっていた。大田の4番目の孫の誕生も、ウェブサイトを通じて知らされた。そして、登頂。素晴らしい！　やった、やった！　のお祝いメールが殺到するなか、突如サイトは凍りついた。

同じ日、ふたりの50歳代の日本人女性がシェルパの協力を得て登頂、ひとりは8300㍍で動けなくなる状態に陥ったものの、無事下山している。大田も実は生還できたかもしれない。どんなことがあるかわからない、夢をかなえる場、エヴェレストである。

報告

6月 Report

日本山岳会の各委員会同好会の活動報告です

図書委員会

第32回山岳史懇談会「静岡大学山岳部70年の歴史」

4月9日(金)夕、30余名が集い、山本良三氏のお話を聞いた。激動の山岳史を部の中核にあった人が生で語りかける魅力と迫力に興味は尽きない楽しい夕べとなった。

山本氏は、現役の時に今西錦司の『山岳省察』を読み影響を受け、〝初登頂は価値がある〟と今西党員のつもりであったと告白。第36回「山岳図書を語る夕べ」で水野勉氏は「『山岳省察』の方法に救いを見た。『生物の世界』からも多くを学んだが、今西の体系的思考には魅かれながらも、抵抗がある」(『山』707号)と述べているが、山本氏も山に傾倒した原動力に今西の影響をあげている。

あらかじめ参加者にPC制御スライド44点をプリント配布。映像を中心に話は進む。静岡大学山岳部の沿革、大正12年5月・旧制静高旅行部創立、昭和4年・部報『山彦』創刊。その後、校友会の大衆化運動の影響を受けて部活動は停滞、部報は出ず。

昭和8年5月・別個に登山振興を目指し〝紫岳会〟を創立。同12年・旅行部を吸収して山岳部を設立、部報『紫岳』創刊号を発行。紫岳とは、初代の山岳部長・桜井和市教授がスイス・レマン湖ホテルに滞在中に、夕暮れのアルプスの峰々が紫色に暮れる様から思いついたことによるという。シンボルとして学舎から見える通称タイラボウ(561メートル・安部川支流藁科川右岸の小峰)に「紫岳」と大書した木柱を頂上に運び、紫岳と命名した。

昭和9～12年にかけ、重光晶(ソ連大使)、森山欽司(衆議院議員)らによる南アを舞台とする「集散登山」が積極的に行われ、アルピニズムを標榜する当時の学生登山界において一応遜色ないレベルにまで達した。合間にも伝統のスキー合宿、近郊の山歩きや沢登り等も盛んで、いわゆる静観的な登山も息長く続いていた。

魅力と迫力に満ちた山本氏の語り

戦時体制下の昭和19年5月・創立10周年記念誌『紫岳』10号が発行され、同時に戦没者追悼号にもなった。昭和25年・静高は新制静岡大学に統合、山岳部も復活したが、学部別、校舎も別であった。

昭和39年・海外遠征の機運が盛り上がり静岡大学山岳会が発足、初代会長に京大学士山岳会の将官級の酒戸弥二郎氏(静岡大学教授)が就任。昭和42年・山岳部は統合された。平成15年・山岳部創立70周年、前身の旅行部創設から80周年となった。創立70周年記念誌『紫岳』第12号(平成15年7月発行)が『山』707号に図書紹介されている。

部や会を支えた14名がスライドで紹介された。加藤誠平(東大パルトロカンリ遠征隊長)、桜井和市(学習院院長)、高橋正八(最高検察庁検事総長次席)、重光晶、森山欽司、尾崎徳郎(静大教授)、垣内政彦(共同通信本部長)、芹沢喬(チューレンヒマール遠征隊長)、酒戸弥二郎(AACKノシャック遠征隊長)など。

静高旅行部創設時の部員加藤誠平は、上高地河童橋の設計者で、国立公園の設定、自然保護運動の初期の考え方、林野庁の森林リクリエーション機能への開放等に携わった。

初代山岳部長桜井教授は、昭和11年、ドイツ留学時にチロルで買い求めたピッケル(アカデム・マイスター)を持参帰国。代々会長が継承するお宝で、当日現物を回覧。頑丈な古典的名器で品もある。

第4代会長・高橋正八は、87年の静岡大学西域学術登山隊(学術調査は中国科学院との合同調査・総勢46名)派遣時の会長、資金集めに多大な実績を残した。

尾崎徳郎は、第2代目山岳会長としてアンデス、ヒマラヤ遠征に大きな貢献をした。

垣内政彦は、関東学生山岳連盟

の結成にも縁の下の力の働きをし、谷口現吉、関根吉郎、浜野正男氏らと力を合わせて、戦後の日本山岳会の復興の原動力になった。

芹沢喬は、山岳部、紫岳会の中興の祖、77年・戦前の部報をまとめ、ダイジェスト版単行本『紫岳』として出版した。

海外登山の歴史については、53年のエヴェレスト初登頂後、ヒマラヤ熱は高まってきた。60年・酒戸教授のノシャック遠征、63年・ヒマラヤ研究会発足、64年・ガネッシュ・ヒマールを目指すも許可おりず、65年は変化の年であった。ネパール政府の登山禁止令、印パの国境紛争によるパキスタン政府の実質的登山拒否姿勢によるバンジャブヒマラヤ学術登山計画の取り下げ。66年・コロンビア・アンデス学術調査隊派遣決定、67年・計画実施。サンタマルタ山群にて多くの初登頂を含む学術調査には7か月を要し成功。交通事故のトラブルもあったが、登山技術的には物足りない遠征ではあった。

69年・カラコルム計画不許可、70年・ポスト期の許可をギリギリの8月15日に得て、南面からチューレンヒマール（7371㍍）に挑み、初登頂に成功。75年・カラコルム・テラムカンリ（7484㍍）にシアチェン氷河より初登頂。10年間の休憩を経て87年・中国ヒマラヤに最後の未踏の7000㍍峰と言われた皇冠峰（7295㍍）を狙うが、力及ばず7010㍍で敗退。

95、96年・中国天山山脈中の未踏峰・グウグルムスターグ（5250㍍）に偵察と試登を続け、97年初登頂。98年・東チベットへ学術登山偵察隊を派遣するも、悪天候に阻まれ、目標は達成できず。

04年夏・中国天山山脈の6332㍍の未踏峰へ偵察隊を送る計画中。本体は05年派遣の予定。

懇談では、ホームグラウンドは南ア全域。OBは460名、若手現役にヒマラヤの夢はなく、岩壁登攀に特化する傾向。なかにはボルダリング世界ツアーに参加している若手がいる。山への想いは断絶しているなどが語られた。

『紫岳』第12号のCD―ROM化は会の中で自作ソフトを開発したが、すでに市販のソフトがあるので、それを利用して編集し、印刷だけを専門の会社に頼むやり方がいいかもしれない。（三沢　一三）

高尾の森づくりの会――第4回植樹祭

「高尾の森植樹祭」は、4月11日（日）、願ってもない晴天のもと、平山会長はじめ、理事、その他林野関係者、協賛会社関係者、法人会員、本会会員、森づくりの会会員、一般参加者など、その数380名をかぞえる多くの方々のご参加を得て執り行われた。

2001年春、初めての植樹祭を挙行してから、4回目。手探りで始めた第1回の植樹祭と比べれば、作業にあたる我々も作業手法に慣れ、工夫を加えつつ準備ができたと考えている。とはいうものの、植樹予定地はザリクボ沢右岸のなかなかの急斜面。ここに4A1・4A2～4Dと5つの地区を設定。ご参加いただく方々の安全を第一にと、作業道の設定、地ごしらえ作業と、昨年12月より真剣に準備は進められた。

植樹祭前日、整地された斜面に苗木の指定席として篠竹を立てた。今年の篠竹には、前もって準備した木の名札が取り付けられている。これも、今までの作業の中から生み出された工夫のひとつ、整然と

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデューをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。

あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせ お申込みは アルプスウェイ
ALPS WAY. We Love Swiss
http://www.fellow-travel.co.jp/
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F
Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300
e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp
〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F
Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986
e-mail osaka@fellow-travel.co.jp
主催：株式会社フェロートラベル ボンド保証会員
国土交通大臣登録旅行業664号　協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局　後援：スイス政府観光局

子どもたちも実際に植樹を体験

立った篠竹の先端に塗られた目印の赤いペンキとあいまってなかなかの見応えであった。

当日、平山会長はじめ各方面からのご挨拶ののち、参加者はリーダーに誘導され各植栽地へ向かった。4D地区は、ザリクボ沢入口より近いこともあって、幼い子どもたちに植樹を楽しんでもらう地区とした。担当メンバーの中に樹木に詳しく木の本を執筆されている方がおり、入山前に、やさしい言葉での子ども向け座学があった。座学を生き生きとした眼で聞き入り、植樹を終えた子どもたちの表情はいたく満足げであったとか。ここにも、メンバーの反省と工夫が加えられていたことである。

初年度の植栽地に根付いた多くの木々の中、山桜は、来年か再来年には花を咲かせるのではと期待されるほどに成長している。初年度植樹祭以来、植樹本数は5800本強にも達する。いずれの苗木も順調に成長を続け、これからの手入れを待っている。これらの幼樹が、周りの環境（主につる類の攻撃）に負けず育っていくのを見守ることは、深い楽しみを感ずることでもあり、また、大きな労力とエネルギーを要することとなる。その責任の重さに今心新たにしているところである。山岳会会員諸兄諸姉のお力添えを、現在以上にいただきたいものと心より願っている。

山岳会の他支部でも、森づくりを始める計画を進められているとか。今回の植樹祭には、前日より東海支部から3名のご参加をいただき、また、1週間後の手直し作業日には、広島支部から1名のご参加をいただき一緒に汗を流した。

情報を交換しつつ、ともに歩める日の近いことを期したい。各方面からいただきましたご支援、ご協力に深く感謝とお礼を申し上げます。

（西村　智磨子）

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします）

富士山頂上気象測候所を有効利用させてもらおう

増山　茂

富士山山頂のレーダードームは2001年9月、その任を終え解体された。そして本年4月24日、山梨県富士吉田市で「富士山レーダードーム館」に生まれ変わった。

厳冬期の氷の斜面を苦労して登りきってお鉢に達した時、そこに聳える近代的なドームを発見して安堵とも失望ともいえない感慨を持った方は多いのではないか。

あの測候所、もう壊されてしまったと勘違いしている方もいるのではないか。しかし、解体されたのはレーダードームだけであって、測候所の建屋や観測機器・通信中継機器は現在でも東京管区気象台の職員が「出張」して保守点検を続けている。

富士山の頂上は日本の象徴的ポイントである。科学を担うものとしては、あの場所に日本最高の「目」を一歩一歩築いた先人の努力を忘れてはならない。また、日本山岳会の一員としては、日本最高峰の頂に通年生活できる環境が与えてくれる利点を考えるべきである。一人の日本人としては、この象徴を輝くものにしたいものだ。

ところが気象庁はどうもこの日本人の誇りである測候所を打ち捨てる考えのようである。もったいない。

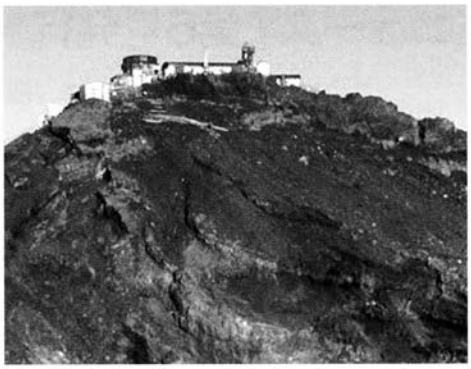
これだけ多くの中高年登山者トレッカーが3～5千メートルの高みにその生の領域を広げている時代だ。ネパールやチベットやカラコルムやアンデスに出かける方は年間数

イラスト・宇都木慎一

万人にのぼる。平均年齢64歳のJAC会員にはふつうの中高年者とは別格の広く高い世界が与えられている。この世界の使い方を高齢者対策に苦慮するわが日本政府に教えてやるのも、我々の役割でもあろう。

しかし反面、この世界は甘くはない。その高さにやられて多くの方が犠牲を払わされている。死にはしないまでも高山病で手ひどい失敗をした方は多い。なんの馴化トレーニングもなくほんの数週間の日程で高所に出かけてしまう方がほとんどなのだ。

富士山があるではないか、といいたい。いや、富士山しかないのだ、日本で高所環境を味わうことができるのは。


レーダードームは撤去されたが……

ヒマラヤを目指す高所クライマーの出発前のトレーニングは富士山ボッカと相場が決まっている。日本の最も先鋭的な高所クライマーがここをトレーニング兼生活の場所にしてきたのは有名な話である。もっともこの先鋭クライマーを含め、6千メートル以上の山に出かけるクライマーの2・1パーセントは死んでしまうのだが。高所トレッカーの方々も4千メートルを越える高地に旅行に出かける方々も、なぜ富士山を利用しないのだろう。

欧米には、4千メートル前後の山頂に高所医科学研究センターが数多く設置されている。北米コロラド州パイクス・ピーク研究センター（4300メートル）やカリフォルニア州のホワイト・マウンテン研究センター（3700メートル）。イタリアのモンテ・ローザ峰研究センター（4200メートル）。インドやパキスタンやヒマラヤに。南米のチリ・ボリビア・ペルー。チベットのラサ。中央アジア、キルギス・カザフスタン。いずれにせよ、4千メートル前後、というのがミソである。この高さが、通常のヒトと、低酸素状態に住むヒトを大きく分けることになるのである。

これらの多くは、当初は軍隊の研究組織として作られる例が多かった。しかし、いまや、トレッキングや登山やスキーを楽しむ国民のための研究施設として変化を遂げてきた。南米や中央アジアでは、鉱山開発や天文台などで働く労働者の健康管理を担ってもいる。

日本でもこれらの施設がほしい。4千メートル前後といえば、富士山しかないのである。トレッキングや登山ばかりではなく、ラサやラパスに出かける旅行者、南米や中央アジアで働くJICAや商社などの方々のために、ぜひほしい。

5年前から日本登山医学研究会を中心に「富士山頂登山医学研究トレーニングセンター」設立構想が考えられてきた。高所医学・山岳界・高所旅行業者・マスコミ各界の代表者からなる13人の委員により検討会が重ねられてきた。あの建物はまだ十分使える。

高所障害に関する基礎的な研究の場、高所トレッキングや登山・高所で長期にわたり仕事をされる方などが出かける前に行うトレーニングの場などとして、この測候所を利用する方法はないものだろうか。文科省登山研修所の前進基地として活用することや、ナショナル・トレーニングセンターの一部とする案などが提案されたが、省庁間の調整の難しさもあり現実のものとはなっていない。

医学関係だけではなく、気象や地球物理畑の研究者らは、大気汚染とその仕組みを解明するために山頂での大気観測が不可欠であるとし、有人での観測体制の存続を望み、積極的な活動を続けている。

気象庁としては「富士山測候所は、来年度にも無人化し、ライフラインを停止する」ことを検討しているようである。しかし一度ライフラインをとめれば建物は一気に朽ち果てることとなろう。

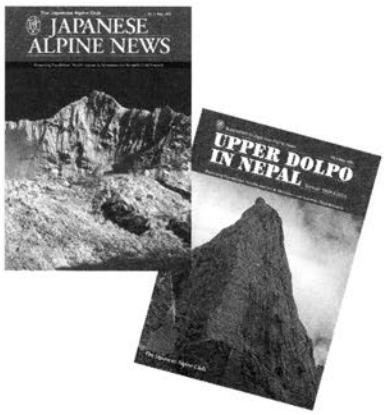
もったいない。

気象庁にお願いしたい。無人化計画を拙速に進めないで、広く国民の意見を聞いてほしい。なにしろあそこは日本の象徴である、われわれ山関係者が込める思いを一度は聞いてもらいたいものだ。

＊連絡先「富士山頂登山医学研究・高所順応トレーニングセンター」設立委員会　(hypk.asano@mx1.ttcn.ne.jp)

英文誌『ジャパニーズ・アルパイン・ニューズ』第5号発行

編集人　中村　保



5月中旬に『ジャパニーズ・アルパイン・ニューズ』Vol.5 May 2004本誌とサプレメント別冊を発行いたしました。2001年10月以来都合7冊を出しました。内容は下記の通りです。本誌では編集にあたり幅広い視野で原稿を集めました。寄稿者の方々には多大なご協力をいただきました。別冊では大阪山の会のご厚意で貴重な地図をご提供いただきました。

おかげさまで海外へ発信しても恥ずかしくないレベルの巡航高度に達したと思います。この紙面を借りて御礼申し上げます。現段階では、海外の140の団体と500人の個人に送っています。JAC会員の方々には下記の価格（送料込み）にて販売します。ご希望の方はJAC事務局にコンタクトして下さい。なお販売部数は限られております。

販売価格：〈本誌・別冊〉各1冊1組・2500円、〈本誌のみ〉1冊・1800円、〈別冊〉1冊・900円

Japanese Alpine News Vol. 5 May 2004　目次
（100ページ、内カラー20ページ）

President Message
会長メッセージ　平山　善吉

● CLIMBING EXPEDITIONS
クライミング・エクスペディション

Lhotse South Face Winter-Near Ascent
ローツェ南壁冬季登攀　ほぼ完登［JAC東海］　田辺　治

The First Ascent of Fungchi（7036m）
フンチ（7036m）初登頂　大阪鋭峰山岳会

Mt. Ruoni - The Highest Peak in the Kangri Garpo Range
ルオニ峰・崗日ー布山群の最高峰［神戸大学］　平井　一正

Annapurna I South Face
アンナプルナ南壁　2003［明治大学］　高橋　和弘

Surveys and Attempts on Kunyang Chhish 7852m
クンヤン・チッシュ　踏査と登攀　飛田　和夫

Attempt on Khangri Shar in Khumbu Himal
クンブヒマール・カングリシャール試登［JACシニア］　朴元　鍾徳

First Ascent of Mt. Grosvenor 6376m in Daxue Shan
大雪山系（四川省）グロスベナー6376m　初登頂　ロジャー・ペイン

First Ascent of Beu-Tse 6270m in Central Tibet
中央チベット・ベウツェ6270m　初登頂　ジョン・タウン

Granite Rock Walls in Qonglai Mountains, Sichuan
四川省チョンライ山系・花崗岩岩壁登攀　アンドレジ＆グロミセック

Japanese Climbs in the Himalaya 2003
ヒマラヤ2003　日本人の記録　山森　欣一

● EXPLORATIONS & ADVENTURES
探検とアドベンチャー

Source of the Irrawaddy and Gorge Country
イラワジ川源流と深い浸食の国　中村　保

Survey and Exploration of Kangri Garpo East
崗日ー布山群東部の探査と測量［ＪＡＣ福岡］　松本　征男

The Great Journey
グレート・ジャーニー　関野　吉晴

A Bicycle Odyssey across Winter Siberia
冬季シベリア横断自転車旅行—2004植村直己賞　安東　浩正

● SURVEYS, RESEARCHES & CONSERVATIONS
調査・研究・環境

White Continent, Blue Sky and Rising Pinnacles
南極—白い大陸・青い空・聳える岩峰［国立極地研究所］　白石・佐野

2003 Everest-Lhotse Environment Expedition
2003　エヴェレスト・ローツェ環境登山［東京農大］　下嶋　聖

Tragedy in the Meili Snow Mountains
梅里雪山の悲劇［京都大学］　小林　尚礼

Sighted Creatures and Footprints
イエティの足跡を追う　［イエティ・プロジェクト・ジャパン2003］　高橋　好輝

What is the Yeti after all?
イエティとはなに　高倉　忠博

●

Supplement to Vol 5 別冊
（22ページ＋全体図）

Upper Dorpo in Nepal　Summer 1999 & 2003
ネパール・ドルポ辺境 1999＆2003　大西　保
（探査・測量・地図作成・6000m峰登頂・河口慧海の足跡検証）

多数のカラー写真、踏査の地図およびドルポ地方の全体図は極めて貴重な資料である。

Climbing & Medicine・34

高所登山と男性の子作り

奥村　昌央

ヒマラヤ遠征後に子供を得たいと希望するものにとって、生まれてくる子供に影響があるかどうかは大変気になるところである。今回、カラコルムの高所登山に参加し男性の生殖機能に及ぼす影響について検討する機会があり、興味深い知見が得られたので報告する。

対象は某県の山岳連盟マッシャーブルム峰（7821m）登山隊に参加した健康な男性隊員3名（20～30歳代）であった。3名とも行動中に酸素吸入をしないで標高6700m（C2）以上を経験し、標高6100m（C1）での滞在は7～10日、標高5100m（ABC）での滞在は10～12日であり、総登山活動日数は40日であった。3名について、登山の出発前と登山終了後1か月目、3か月目、2年目に精液検査、内分泌検査などを行った。その結果、精子数と精子運動率はいずれも1か月目に減少したが、3か月目にはほぼ回復していた。

一方、精子の奇形率はいずれも1か月目で増加し、3か月目ではほぼ前値に戻っていた。内分泌検査では血中男性ホルモンが1か月目、3か月目とも減少しており、それと平行するように勃起障害が生じていた。2年目の検査ではいずれも登山前の状態と変化なく、長期に及ぶ生殖機能障害はないと考えられた。登山活動中にパルスオキシメーターで測定した動脈血酸素飽和度は、標高6100mではいずれも50%台であり、さらに高度が上がるとそれ以下になっているものと推測された。体重は1か月目では出発前に比べて3.5～6.5 kg減少していた。

高所登山による生殖機能障害は、低酸素による精巣組織の直接的な障害と、ストレスによる間脳下垂体系を介した間接的な障害が考えられる。障害の程度は高度や滞在日数にもよるが、一般的には時間の経過とともに回復するものと思われる。

今回の研究では遺伝子異常の発現までは検討できなかったが、精液所見で検討する限り、男性の子作りは登山から戻って少なくとも3か月間は控えた方が良いと思われる。ヒマラヤ遠征後に子供を得たいと希望する場合には、できれば遠征前後で精液検査を受けることをお勧めしたい。

（本稿は第19回日本登山医学シンポジウムで発表され、High Altitude Medicine & Biology 2003,4(3)に掲載された論文の要旨です。奥村氏は本研究によって平成16年度日本登山医学会奨励賞を受賞されました。）

■医療委員会ではHPを開設しました。本コラム欄も『山』676号に掲載された第1回目のものからご欄になれます。HPアドレスは以下のとおりです。http://jacclimbingmed.hp.infoseek.co.jp/index.html）日本山岳会HPのトップページからも入れます。

山の本の古書店
在庫目録年2回（5月・11月）発行
ご希望の方お申込ください。
ご蔵書を整理するときはぜひ弊店に！
古書買入　晴山書房
東京都中野区上鷺宮4－6－3
TEL&FAX　03(3990)4540

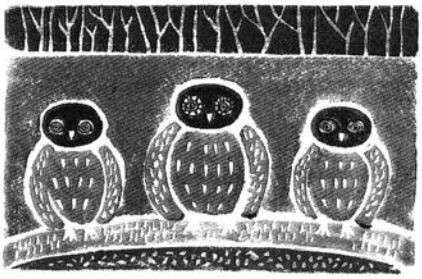
海外登山「韓国の山と岩」隊員募集

事業委員会

● 8月26(木)から29(日)、韓国の北漢山・仁寿峰に行きませんか？　岩登り初心者の方も歓迎！　ソウル市内を一望できる国立公園北漢山のハイキングも計画しています。

●限定15名、費用は9万4千円、詳細は本誌7月号に掲載します。問合せは事務局まで。

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥　版画・奥野渓石

『渾身の山』
我が剱岳北方稜線

佐伯邦夫・著

北アルプス剱岳にこだわり続ける著者の50年史は、山仲間たち（魚津岳友会）と築き上げた、剱岳北方稜線の個性的な山々と谷の熱い記録で埋められている。

氏の登山人生の大部分が稜線の東に流れ落ち、黒部川となる谷と沢、北方稜線の西に急流となって富山湾に多様な様相の滝や沢、そして僧ヶ岳、毛勝、釜谷、猫又、赤谷山、剱岳などの尾根に想いが注がれ、いわば「宿命の山域」への熱い情熱と自然賛歌が読み取れる。『渾身の山』は山に向き合う姿勢であり、その気概を込めて書いたと氏は言う。

本書に収められた、雪稜編、沢編、山スキー編など15編は氏の50年史のうち後半部分であるが、この地を慈しみ、この地域に根ざした者の喜びが、全編に滲み出て爽やかだ。

特に私を魅了するのは、春の毛勝三山縦走、赤谷山から剱岳へ、の章での、求めて剱岳を目指し、苦しみ、雪と格闘し、耐えて耐えて、遠く高く辛かった頂に立ち、限りなく貴いものが、深く深く氏を満たすところである。

若き日の登山では感じなかった感覚と現実の山の世界での新鮮な喜びが溢れている。

また、「釜谷、田部重治から90年」では、18歳以来46年ぶりの再登で、そのなかで田部重治氏の初登の記録が詳しく述べられ、同じく若き時に遡行した旧知の方が、釜谷の、「昔のまま、なにも変わらぬ、これが私への大切な贈物」だったと述べており、邦夫氏はこの言葉の意味の深さを多くの人の心に届けと願わずにいられないと結んでいる。

『高く遠い夢』
『70歳エベレスト登頂』

三浦雄一郎・著

感動的な登頂シーンの第1章、10年間の準備期間の第2章、登頂までの64日間を日記形式で克明に描写した第3、4章、そしてかなえた夢がゴールではない、まだまだ夢は果てしなくさらに高いところにあると結ばれている第5章からなる70歳のエヴェレスト登頂記（前書）。写真も多く、山好きならずとも一気に読んでしまうだろう。

高所登山の成否は高度に順化し、かつ、食べられて眠れることであると言われるが、この本のベースキャンプでの集合写真を見て納得した。プロのシェフが隊員の胃袋をあずかっているのである。大名登山という言葉は当たらない。年齢にふさわしい登り方があり、そのひとつのあらわれなのである。シェフがユニフォーム姿で写真に収まる、この気持のゆとりというかユーモアのセンスというべきか、この本のそこかしこに感じられる。

六千メートル以上の高度で滞在することは衰弱につながるという認識を三浦隊が覆したのは、酸素ボンベのサポートだけでなく、プラス志向の考え方や食事内容が大きく関与しているからかもしれないと感じた。

今回の快挙は高齢の登山愛好家に夢を与えたとも言えるが、一方、夢の達成にはこれほど大変な努力をしなければならないこと、さらにすべてにおいて最高のコラボレーターを得ることが大切であることを著者は強調したいのではないだろうか。

後書は雑誌である。

今年もさんけんで会いましょう

山スキーの章では、「剱沢から片貝東大谷へ」が当時としては、想像力を生かした山行で山屋の気持ちが素直に伝わり楽しく読める。

巻末の用語解説、年譜「僧ヶ岳、毛勝三山との五十年」は登山者にとって貴重である、一読をお勧めしたい。（佐伯　尚幸）

2003年7月　白山書房刊
315ページ　2000円

今回のプロジェクトおよびそのメンバー、すなわち三浦ファミリーとその周辺の人々の紹介を軸に編集されたもので、どのテーマも豊富な写真とともに2、3ページにまとめられている。（堀井　昌子）

2003年7月　双葉社発行
245ページ　1500円
2003年　双葉社発行　10
6ページ　1524円

『山頂渉猟』
――2000メートル以上の642山その総てに登った男の記録――

南川金一・著

著者が2千メートル以上の山すべてに登られたことは会報676号で存じ上げてはいた。このたびそれをまとめて1冊となったものを手にした時、2千メートル以上という標高と、642山という数に改めてずしりとした重みを感じたのである。

登った山の数からだけ言えば故今西錦司氏の1552山をはじめ、ほかにも隠れた存在があるに違いない。しかし、5万図、2万5千図に山名注記のある山ない山あわせて2千メートル以上の642山、しかも数例を除いてそのほとんどを単独でなし遂げたとなるとおそらく前人未到の領域であり、近年における国内登山界の快挙と評しても差し支えないと思われる。

本書の内容を大別すると、――まえがきに代えて――の副題を持つ「日本の山の再発見」と題した論説。642山中「162山の登山記録」。そして「2千メートル以上の山642山のリスト」の3部からなっている。

「日本の山の再発見」では2千メートル以上の山を目指した動機とその経過。642山の選び方。開発し尽くされたかに見える日本の山にも、探検登山時代と変わらない山が少なからずあること。こうした山を目指すにあたっての考え方と採った方法。さらには高さに拘わらず、再発見に値する山はほかにいくらでもあることなどを論じている。

162山の登山記録は前記のような山を中心にかかれているのだが、それらの所在地域を9つに章立てしている。北アルプスと南アルプスは北部と南部に分け、ほかは中央アルプス・御嶽山周辺、日光・尾瀬周辺、上信越・北信・妙高周辺、八ヶ岳・奥秩父周辺、白山周辺である。

それぞれの章には山域全体の概念図を、さらに山ごとに登山ルートが添えられている。その山の多くが主脈から離れたところにあるので、5万図上で探すのに役立っている。

記述は単なる登山記録に止まらず、山名由来やその山の初期登山記録との照合もなされていて、充実した内容となっている。

巻末の「付表」「2千メートル以上の山642山のリスト」は、鈴木弘道著『山の高さ』にもとづき標高順に並べられ、5万図名、所在県、登頂年月が記載されている。ちなみに地形図上に山名の記載がない山は45山あった。

何はともあれ、日本の山の登山の原点を探索しようとしている人々にとってはこよなき座右の一書であることは間違いない。

（山田　哲郎）

2003年11月　白山書房発行
298ページ　2000円

創立100周年記念事業にご協力を

▲世界的に類を見ない貴重な探検記録

禁断のアフガーニスターン・パミール紀行

――ワハーン回廊の山・湖・人――

平位　剛 著
A5判 480頁
豪華限定本のみ僅少在庫有

地政的理由から永らく外国人の入域が閉ざされていたアフガーニスターン東北部に盲腸のように突出するワハーン回廊へ故マスード将軍に庇護され、1999～2001年の3年間探険に入った世界的に類を見ない貴重な探検記録。

◎好評発売中!!

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図
〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入
385ページ　B全判地図13葉
宮森常雄（秩父宮記念山岳賞受賞）・雁部貞夫　共著

定価（本体33,000円＋税）

・カタログをご請求下さい

ナカニシヤ出版
〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
Tel.075-751-1211　Fax.075-751-2665
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

図書受入報告（2004年4月）

著　者	書　　名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
国際山岳年日本委員会(編)	我ら皆、山の民：We are all Mountain People	190pp/26cm	国際山岳年日本委員会	2004	発行者寄贈
増田宏(著)	回峰：日高・白神・アンデス・アルプス	345pp/22cm	白山書房	2004	出版社寄贈
藤原優太郎(著)	東北の峠歩き (んだんだブックス)	133pp/21cm	無明舎出版	2004	著者寄贈
小林三男(著)	岩と雪の狭間で：私の岩登り事始め	314pp/20cm	風媒社	2004	出版社寄贈
神尾重則(著)	Dr.重さん山のカルテ：奥多摩からヒマラヤまで	215pp/20cm	西多摩新聞社	2004	著者寄贈
熊本日日新聞情報文化センター(編)	里山巡礼：熊本癒しの50山	199pp/21cm	熊本日日新聞社	2004	田上敏行氏寄贈
中山嘉太朗	シルクロード　9400km　走り旅：ランニングシューズをはいた孫悟空	286pp/21cm	山と渓谷社	2004	出版社寄贈
山と渓谷社(編)	山がくれた百のよろこび	446pp/19cm	山と渓谷社	2004	出版社寄贈
徳久球雄　他(編)	日本山名事典(初版)	1213pp/22cm	三省堂	2004	出版社寄贈
Heinz Peter Brogiato	Die Anden Geographische Erforschung und Kunstlerische Darstellung	306pp/28cm	D & O Alpenverein	2003	W.Heichel氏寄贈
孫慶錫(著)	登山日記(ハングル版　原書)	310pp/19cm	ピョンファ(平和)出版社	1994	著者寄贈
孫慶錫(著)	続・回想の山々(ハングル版　原書)	368pp/23cm	サナックムヌァ(山岳文化)	2003	著者寄贈

会務報告

4月理事会

日時　4月14日18時30分～20時20分
場所　日本山岳会会議室
［出席者］平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、朴元、贄田、田村、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎各理事、宮崎、鰺坂、小倉（董）、西村、重廣各常任評議員
［委任］小川、大蔵、鳥居各理事、内田、一力各監事

【審議事項】

1　平成15年度事業報告について　藤本
別紙のように事業報告があった。まちがい等訂正があれば修正するので申し出てほしい。（承認）

2　平成15年度収支決算報告について　橋本
●201号室のルームの購入が特記されることである。
●減価償却費に見あう積立金が必要である。
●グッズ販売などによる事業収入増にも頑張ってほしい等意見があった。（承認）

3　理事会議事録署名人選任の件　藤本
黒川、贄田理事にお願いしたい。（承認）

4　日本山岳会所蔵絵画等の貸出規定について　鈴木
●有料化を考えてはどうか。
●絵画を条件の良い所で保管してもらっているという考え方もある等意見もあった。（承認）

5　図書管理委員会設置について　藤本
図書管理委員会を設置し、委員として水野、松田、山本氏を選任する。担当理事は会長が直接見ることにしたい。
各種委員会における委員の任期が有名無実になっている等の意見があり、別途検討する。（承認）

【報告事項】

以下の件が担当者より報告され承認された。

1　3月27日開催の評議員会について　藤本
平成15年度事業報告および収支決算について了承、名誉会員推薦の基準について種々意見があった。

2　会報『山』4月号の内容について　今村
メインは中央分水嶺について取上げた。

3　平成16年度通常総会について　藤本
5月15日㈯14時より弘済会館（いつものグリーンホテルと異なる）にて実施する。

4　創立100周年事業募金について（免税申請を含む）　芳賀
会員募金は3月末で660万円（2025人）である。さらにご協力をいただけるように、総会通知とともに、募金をいただいた方、いただいてない方に分けてお願いをする。
免税処置については申請書作成中である。

5　支部長会議　藤本
5月15日㈯総会の前に支部長会議を行う。

6　駐日ネパール大使歓迎会について　藤本
会長か副会長が出席する。

7　本会所有の地図貸与の件　藤本
電子化後当会に1組寄贈いただくことになっている。

8　秩父宮記念山岳賞募集について　芳賀
金会計決算について　藤本
日本山岳協会、ポカラ国際山岳博物館より報告があった（別紙）。

9　ポカラ国際山岳博物館建設募

10　委員会報告

自然保護委員会
●4月11日㈰高尾の森、第4回植樹祭が行われた。400人参加。
●早池峰山、小田越県道を迂回路にする陳情が採択された。

資料・映像委員会
4月3日㈯渡辺兵力氏講演会。170人の参加があった。

医療委員会
5月29、30日、日本医療シンポジウムが行われる。

新企画　★K2初登頂50周年記念特別企画★
究極の絶景が身近に。秘境デオサイ高原で高所順応
K2・バルトロ氷河ヘリ・フライトとコンコルディア、パイユ着陸11日間
東京発着
①8月27日(金)～9月6日(月)　498,000円
②9月17日(金)～9月27日(月)　498,000円
国土交通大臣登録旅行業第490号／㈳日本旅行業協会正会員　ボンド保証会員
アルパイン ツアーサービス 株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

INFORMATION

イラスト　宇都木慎一

◆「上高地のタベ」ミニトーク

山の自然学研究会・自然保護委員会共催

やま学研が、JAC発祥ゆかりの地、上高地で自然解説員活動をスタートしてから11年、温泉ホテルでミニトークを始めてから9年目を迎えます。今年も16日間、展開します。皆さまのお出でをお待ちしています。

日時　7月31日(土)～8月15日(日)19時半～

場所　●上高地温泉ホテル（ロビー）●アルペンホテル（2階会議室）●西糸屋山荘（談話室・要予約）

テーマ　●上高地誕生の歴史●上高地の動植物●氷河地形などなど

話し手　やま学研会員約20名

問合　古田寛昭・上高地活動ステーション（TEL0263－95－2525　FAX0263－95－2500）

◆フォーラムIN大山・立山

自然保護委員会共催・緑爽会後援

恒例の「自然と人間の暮らしを考えるフォーラム」を左記の通り実施します。どうぞご参加下さい。

日時　8月20日(金)～22日(日)

場所　富山県大山町および立山町

費用　2万5千円（チャーターバス代等は、別途）

テーマ「槍ヶ岳開山・播隆上人」

日程　第1日　大山町河内・播隆生家跡で開会式。夜、宿舎にて「フォーラムIN大山」

第1部①越中おはら節　地元有志、②シンポジウム「播隆上人を語る」　穂苅貞雄（槍ヶ岳山荘・播隆研究者）／黒野こうき（播隆ネットワーク代表）／前田英雄（郷土史家）／近藤信行（評論家）

第2日　A・①立山（雄山）登山、②室堂散策、B・有峰湖周遊、C・薬師岳登山（健脚向）

第2部　於・農山村交流センター　演劇・音楽劇で地元と交流、夜は「立山曼荼羅の絵解き」佐伯史麿／尺八　芦垣一哉

第3日　称名滝・まんだら苑等を見学の後、解散

申込　7月20日までにハガキかFAXで近藤緑宛。（〒167－0042　杉並区西荻北2－10－22－502　TEL・FAX03－3395－0326）

＊折り返し詳細を送ります。

◆「北海道の分水嶺踏査山行」参加者募集

分水嶺踏査委員会

100周年記念行事のひとつ・中央分水嶺踏査への一般会員参加の第1弾。北海道支部主催です。

日程　8月29日(日)

集合　6時美瑛町望岳台

行程　望岳台―十勝岳―美瑛岳―雲ノ平―望岳台

定員　30名（先着順）

問合・申込　8月10日までに長谷川雄助宛（FAX011－738－8212　メール upepe-sankei@yahoo.co.jp　札幌市北区北7条西6丁目キタノビル㈱北斗警備内）

◆発足40周年記念上高地全国集会

自然保護委員会

日程　9月10日(金)～12日(日)

場所　上高地西糸屋・山岳研究所

費用　●全コース・約2万5千円（2泊3日6食）●記念集会から参加・1万3千円（1泊2日3食）

日程　第1日　16時現地受付。会食後、映画会「昭和初期の上高地」ほか（解説・羽田栄治）

第2日　午前中支部報告会13時・一般受付、14～18時・40周年記念集会①基調講演（未定）②自然保護委員会の40年③パネルディス

ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
（国土交通大臣登録旅行業1167号）

東京／〒160-0008 東京都新宿区三栄町23　TEL 03-3341-0030
大阪／〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号　TEL 06-6946-9111
名古屋／〒464-0807 名古屋区千種区東山通り5-113 オークラビル6F　TEL 052-788-2422

カッション「日本山岳会自然保護活動のこれから」（パネラー交渉中）終了後、懇親会
第3日　協賛事業自由参加
＊次号で詳細をお知らせします。

◆第21回全国支部懇談会　熊本支部

阿蘇の魅力は、広大な草原景観、カルデラを取り巻く外輪山、それにカルデラのほぼ中央部に並ぶ中央火口丘の山々です。ぜひ阿蘇の魅力を楽しみに来熊ください。
期日　10月2㈯、3日㈰
日程　2日・13時熊本交通センターホテル受付、15時懇談会、18時懇親会
3日・①阿蘇高岳（1592㍍）登山（3コースを設定）②観光コース（当日千円徴収）
参加費　1万8千円
申込　8月10日までにハガキに〒、住所、氏名、年齢、会員番号、支部名、参加コースを明記し田上敏行宛（〒860－0051　熊本市二本木3－3－8　TEL・FAX096－324－1200）
＊申込者には詳細案内を送付。

◆「山想倶楽部」の発足　旧02同期会

2004年4月17日をもって会員87名の新たなスタートとなりました。国内、海外の山行、温泉探究にみなさんも一緒に行きましょう。
7月　加賀・白山
8月　槍、穂高岳
9月　「中央分水嶺登山」参加
浅間、黒斑山、地蔵峠
10月　十石山、白骨温泉
11月　雨飾山、小谷温泉
問合　中川秀利宛（TEL03－3990－3222　FAX03－3990－3274　メール nakagawa@calls.ne.jp）

会員異動

物故
三宅健治郎（9132）03・12・24
斉藤　董（9662）04・3・28
結城政也（133318）04・3・31
榊原寧子（115228）04・4・3
寒河江誠（7393）04・4・5
渡辺富士子（9745）04・4・6
神谷博行（7129）04・4・16

退会
境野俊男（4490）関西
橋本　廣（5795）富山
長田喜久子（7144）
太田新生（8948）
下田　宏（10372）
鷲頭　隆（10409）
嶋津芳子（131106）東九州
櫛間敬子（132291）宮崎
小峰　博（13332）
山本利幸（136110）福井

終身会員
長谷川英夫（9027）

ルーム日誌

4月
1日　フォトビデオクラブ
2日　事業委員会　JAC01会
5日　総務委員会
6日　青年部
アルパインスケッチクラブ
7日　山岳地理クラブ
02同期会
8日　学生部　山の自然学研究会
9日　図書委員会
12日　長期目標検討委員会
アルパインスキークラブ
13日　常務理事会　二火会
アルパインスケッチクラブ
14日　理事会　つくも会
15日　九五会
科学委員会　海外委員会
16日　事業委員会
17日　100周年記念事業委員会
評議員会　SUN燦会
同好会分水嶺担当者会議
02同期会
19日　資料委員会
高尾の森実行委員会
20日　フォトビデオクラブ
山研運営委員会　自然保護委員会　インターネット小委員会　00会
21日　総務委員会　三水会
22日　ゆきわり会
青年部　山遊会
23日　総務委員会
26日　山岳編集委員会　02同期会
27日　自然保護委員会　二火会
九五会
28日　図書委員会
アルパインスキークラブ
4月来室者653名

日本山岳会会報　山　709号
2004年（平成16年）6月20日発行
発行所　社団法人日本山岳会
〒102－0081
東京都千代田区四番町5－4
サンピュウハイツ四番町
TEL　東京(03)3261－4433
FAX　東京(03)3261－4441
発行者　日本山岳会会長　平山善吉
編集人　今村千秋
E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
印　刷　株式会社　双陽社